

令和元年度 病害虫発生予察情報 技術情報第5号

令和元年 9月 13日

トビイロウンカの発生状況について 広島県西部農業技術指導所

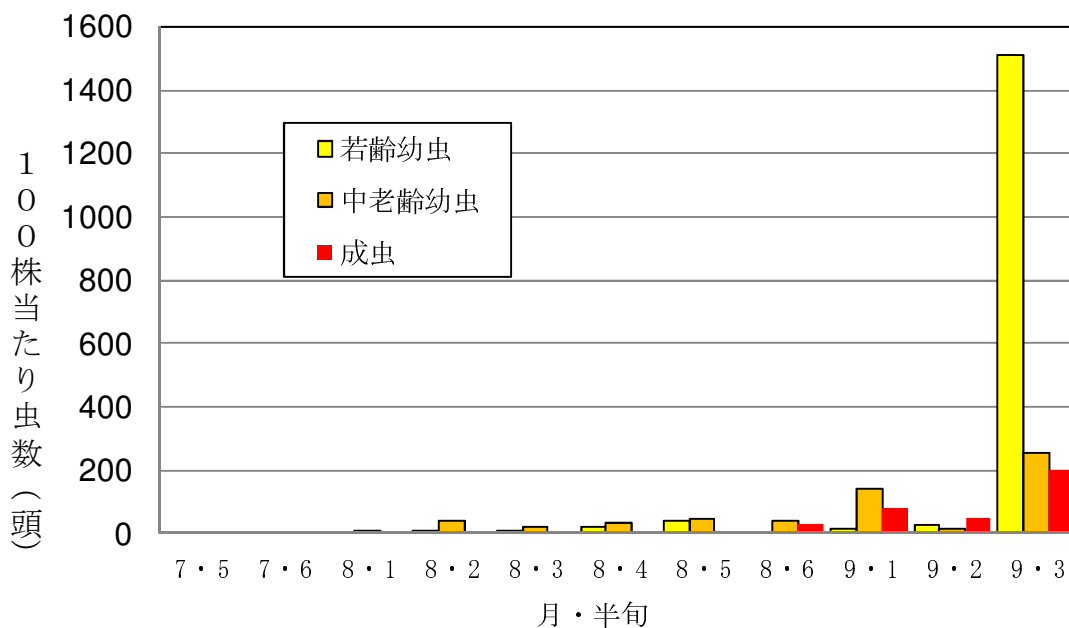
1 対象作物 水稻（県中南部 中生品種）

2 概況

- (1) 広島県ではトビイロウンカについて、注意報第1号（8月9日発表）を発表し、防除対策を呼びかけている。
- (2) 9月上旬巡回調査では、被害が多発した平成25年に次いで多い発生となっている（表1）。
- (3) 9月上旬の発生の主体は若齢幼虫であった。多発現場（図1）では、9月中旬以降坪枯れなどの被害発生が予想される。
- (4) 県南部の予察田（呉市安浦町）では、9月第3半旬に若齢幼虫の発生が急激に増加している（図2）。
- (4) 県中南部では、早生種で坪枯れ被害が増加している。
- (5) 中国地方1か月予報（広島地方気象台9月12日発表）では、向こう1か月を平均した気温は高い見込みとなっており、発生に好適な気象条件となっている。

（表1） 9月上旬巡回調査でのトビイロウンカの発生状況（県中南部）

	本年	平年	前年	平成25年
発生地点率（%）	73.7	35.2	0.0	80.0
平均発生程度	1.68	1.17	1.00	1.80



（図2） 県南部におけるトビイロウンカ発消長（呉市安浦町）

3 防除対策

- (1) 9月上旬現在、ほ場で確認されているのは飛来後第3世代の若齢幼虫が主体と推定される。
- (2) 早生品種では、被害発生が収穫期直前に当たる場合は、防除せず早めに収穫する。
- (3) 中生品種の防除適期は、9月中旬～下旬頃と予測される。地域によって発生状況が異なるため、ほ場の坪状の変色の発生、下葉の急激な枯れ上がりなど、発生が疑われる場合はほ場を見回り、発生が多い場合は防除を行う。
- (4) 8月中下旬に防除をしていないほ場では、特に発生に注意する。
- (5) トビイロウンカは株元付近に生息する。粉剤や液剤により防除を行う際は、薬剤が株元に十分届くよう散布する。
- (6) 収穫時期に近い防除となるため、農薬を散布する際は使用時期（収穫前日数）、使用回数等に十分注意し、使用基準を順守する。被害発生が収穫直前に当たる場合は、防除せず、早めに収穫する。



(図1) 若齢幼虫の多発生状況。矢印で示した白い点と同じものすべてが幼虫。
(令和元年9月9日 広島市安佐北区巡回田)



(図3) トビイロウンカ長翅型成虫(左)と短翅型雌成虫(右)。



(図4) 坪枯れ被害

● **お問合せ先**

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
東広島市八本松町原 6869
TEL : 082-420-9662 (直通)

ホームページ(植物防疫) (<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/198/syokubou-t.html>)



広島県 植物防疫

検索

